

議事録

名 称	高知カツオ県民会議 カツオ消費・漁業分科会（第5回）		
日 時	2017年11月28日 13:30~14:15	場 所	旭食品 本社会議室
		作 成	事務局：サニーマート 眞鍋
資 料	議案書、振り返り総括資料、出席者リスト、ニュース録画映像		
出席者（敬称略）			
（サニーマート）中村、（旭食品）竹内・福島、（高知かつお漁業協同組合）中田・松田・明神、（酔鯨酒造）上田、 （県漁業協同組合）澳本・米沢・中元、（県漁業信用基金協会）佐治、（サンシャインチェーン本部）濱田、（高知新聞）福田、 （高知工科大学）浜田、（石田祝稔事務所）山内、（高知県水産振興部）大河、（サニーマート）眞鍋 以上17名			
議題および意見 全議題において要点のみ記載			
冒頭			
・ 本分科会に初参加の酔鯨酒造上田様よりご挨拶を頂いた。お酒とカツオは関係も深く、様々な情報交換を行っていく。			
1. 直近の活動について紹介（事務局）			
・ 小学校での食育活動に関するニュース映像を視聴した。9/26に高知県漁協女性部連合協議会の協力で高知潮江東小学校で行われたもの、10/6にサニーマート神田店の協力で神田小学校で行われたもの、それぞれの取り組みの特徴なども交えて知見を深めた。 ⇒正しい情報や伝えるべきことが何なのかそれぞれで考え実践しているため、県魚であるカツオを子供達に伝えるうえで骨子になるものが、県民会議で形にでき、それらを高知県や市町村と連携できれば、さらに地域の小学生への教育ツールとしての精度や内容も良くなるのではないかと意見があった。			
・ 10/14開催の黒潮町佐賀戻りカツオ祭りに関するニュース映像を視聴した。カツオ県民会議として、当イベントを利用した啓蒙活動ができないかの検討を行っていきたい。 ⇒当イベントは「美味しいカツオを食べられる」というグルメイベントの色合いが濃いため、来場者の期待もそこにあるなかで、そのカツオがどうやってとれて、どういった状態なのかを知ってもらうための動きは必要と感じる。同様のイベントは各地にもあり、来場者に伝える形がどういったものかを県民会議として検討する必要がある。			
・ 11/10開催の第二回カツオ県民会議シンポジウムに関するニュース映像を視聴した。カツオが高知では獲れなくなる一方で世界的には増加傾向にあり、今後は持続可能な資源として管理していくことが必要である。世界に向けた発信とそれを先導していくことができるかを問われているといったことが伝えられた。さらに専門性が増していっており、県民としてできることとは少しズレも起きている部分も感じた。 ⇒資源を守るためには管理が必要という提示があったが、カツオのエサも含めた総合的な管理を自然に対してどこまで実現できるかは不明瞭な点も多い。工場生産される食品とは違い、自然界から戴いているということに感謝し、獲れなくなったことについても消費者に正しく情報を伝えていくことは大切な役割である。			
2. 発足からこれまでの振り返りと総括（座長より紹介、各出席者からの意見）			
・ 県民会議、各分科会の活動目的と目標、これまでの進捗について、直近の議事録等からの情報をもとに、共有を行った。 ・ 高知の一本釣りでの漁獲量の減少に対して何ができるかということを考え行動に移すということが、各分科会として考えてきた半年だったため、具体的な行動に移していける部分を探していきたいという意見が多かった。			
3. 今後の取り組みや感じている課題についての意見交換			
・ 小学校でのカツオに関する教育がどれくらい行われているのかが把握できていないが、バラバラなやり方、情報、体制で行って来られてきたと思われる。これらの活動がある程度、形になり、県や教育機関との連携ができれば、高知の県魚としての理解も広がるのではないかと。また産業や資源に対する理解にも繋がり、将来の担い手として可能性を残せる。 ・ 当初検討を考えたMELやMSCの普及は難しい問題で時間もかかるが、漁業関係者にとってはひとつの差別化戦略で			

もあり、継続して考えていく必要がある。「一本釣り」をアピールするほうが分かりやすい。

- ・ 高知のカツオが何故おいしいのかを発信できればいい。発信内容が、観光客、県民向けに分けてもいいかもしれない。
- ・ 漁業従事者は減少しており、仮に高知にカツオが戻っても獲りに行く船が出せなくなるという危機感がある。高齢化も進み、20人乗りの漁船で例えると、6人が外国人、日本人は30歳代が2,3人、40～50歳代が4人、60歳以上が7,8人という構成になっている。漁業に関する知識が当分科会でも不足しているため、あらためて「知る」機会が必要。
- ・ カツオ漁船は気仙沼に集約し、その中でもカツオは不漁という状況が続くが、高知にいと意外と分からない。
- ・ 食育活動で、漁師のことも小学生に伝えられれば、獲った人のことを考えるきっかけにもなり、意義がある。
- ・ 骨の無い魚が喜ばれる時代となったが、魚は日本人の文化と切り離せないことも教えていく必要がある。
- ・ カツオの食べ方やメニューも、カツオの先進県として発信したい。とは言え、王道である刺身やタタキが美味い。食分科会と検討できる部分を探りたい。
- ・ 「ふるさと納税」で、カツオを食べてもらう、知ってもらう、資源保護に資金を回す動きを組み込んだ商品開発ができれば新たな情報を発信するツールとなりうる。

4. 次回スケジュール

- ・ 仮 2018年1月19日(金) 16:00～ サニーマート本部会議室
(日時は仮設定のため、当会員にヒアリングした後に決定する)
- ・ カツオ消費・漁業分科会には川上から川下、また産官学で幅広いメンバーが参加してくれており、ゴール設定が難しいが、次年度に向けての取り組みを次回検討する。「小学生を中心とした食育活動の推進」、「漁業への知見を深め発信していくこと」、「食べることにに関する情報の発信」、「MEL等の付加価値を創造していく方法」を深めていくことを候補として考える。

以上